

# 先進事例 紹介

～大学生の防災意識の向上と消防団の若手団員確保に向けて～

## 大学生消防防災サークル支援事業「京都学生FAST」

京都府 府民生活部消防安全課

### 1 はじめに

京都府は、日本列島のほぼ中央に位置し、面積4,613.21km<sup>2</sup>、人口約261万人で、南北に細長いのが特徴です。府内には26の市町村があり、その全てに消防団が設置されています。平成27年4月現在、1万7,838人の消防団員の皆さんに地域の安心・安全を確保するため、地域防災の要として活動していただいています。しかしながら、消防団員の高齢化・若手団員不足が深刻化しており、消防団員の確保が急務となっています。

そのような状況を受け、本府では平成26年度から女性、OB団員や若者といった様々な切り口から消防団への入団促進に向けた取組を展開しています。

特に、若者に対するアプローチの一環として、府内の大学生による消防防災サークルの立ち上げとその活動を支援し、若者に対する意識付けを行い、将来の入団促進を図る取組を開始しておりますので、その概要を紹介させていただきます。

#### 管内図



### 2 大学生消防防災サークル支援事業「京都学生FAST」

#### (1) 事業開始の経緯・目的

消防団の団員減少は、社会構造や意識の変化など様々な要因があり、対策を講じるには性別や世代を問わず広く理解を求め、地域防災の重要性や社会貢献意欲を喚起していく必要があります。

特に、若手消防団員の減少を改善するためには、大学生へのアプローチが不可欠ですが、消防団の認知度が低下していることに加え、授業やアルバイト等で忙しい大学生に対して、直接的に入団を促しても、実際の入団につなげるには、ハードルが高いと感じ、まずは大学生の地域防災に対する意識の醸成と消防団の認知度アップが必要であると考えました。

そこで、学生自身のフィールドにあり、馴染みのある『サークル』という緩やかな位置づけで、消防防災活動に触れる機会を作り、サークル活動を通して、消防団や地域との関わりを持つ中で、興味関心を喚起させ、将来の入団促進につなげることを目的に、取組をスタートさせました。

本事業を通して、大学生と地域（消防団）のネットワークの構築を図るとともに、消防防災に関する知識やスキルを習得し、近い将来、居住地や勤務地等で若い防災人材として活躍してくれることを期待しています。

#### (2) 事業の内容

本事業は、京都府内の大学（短期大学等）を対象に、本府から各大学へ呼びかけを行い、興味のある大学や学生を募って、大学生による消防防災サークルの立ち上げを支援しています。サークル発足後は、活動のコーディネイトや各関係機関（消防署・消防団・ボランティアセンター等）との調整等を行い、本府から活動に必要な資機材（活動服や腕章等）を交付して、京都府公認の消防防災サークルとして支援しています。

また、各大学単位で構成された大学生の消防防災サークルのネットワークを府全体で構築し、「京都学生FAST (Fire and Safety Team)」の呼称のもと、合同の図上演習の実施や活動報告会等を行い、各大学間での相

互交流や意見交換を図るといった横のつながりを活かした活動も行っています。



平成26年度合同活動報告会



4大学合同図上演習

### (3) 活動紹介

平成26年度は京都華頂大学・短期大学、佛教大学、京都橘大学、同志社大学の4大学でサークルが発足し、それぞれに活動を開始しており、平成27年度については、京都学園大学、京都文教大学、京都産業大学の3大学が実施に向け、準備を進めています。

大学ごとに、それぞれの特色やニーズに応じた活動が展開されており、活動内容は多岐に渡っています。共通の活動としては、地域の消防団員との防火パトロールの実施、消防団活動の見学や地域の防災訓練の参加等があります。また、府立消防学校や京都市市民防災センター等の見学といった施設を活用した体験学習を行っている大学もあります。



消防団との防火パトロール

これらのフィールドワークに加え、救命講習やボランティアセンターの防災講座を受講する等して主体的に自身のスキルアップに励んでいます。また、大学祭での防災ブースの出展や防火啓発ビラの配布といった大学構内での防火・防災啓発活動も積極的に行っています。

最近の取組としては、学生の企画による子ども向けの防災啓発イベントの実施や大学での空き時間を利用したAED講習会の実施といった活動も行っており、活動の量・幅が広がってきています。



消防団活動の見学

## 3 今後の展望

事業を開始しておよそ1年が経ちましたが、学生自身がサークル活動を通して、消防団活動を目で見て、肌で感じる中で、消防団に対する考え方やイメージが変わり、消防団へ入団する学生が少しずつ増えてきています。もちろん即効性のあるものではないかもしれませんが、大学生への意識付けを着実にやり、興味関心を涵養させることで、長期的には一定の効果が出てくると期待しています。

大学生と消防団を繋ぎ、学生の防災意識を高める場である「京都学生FAST」を、今後も拡充させていき、大学のまち京都の強みを活かした取組として、消防団員確保の一助となるよう推進していきたいと存じます。



平成26年度京都学生FAST集合写真